



上空の重く垂れ込めた雲に反して、水際は澄んで見えます。植物プランクトンが増えて緑色にだった水が透き通っていました。夏の終わりを告げています。雨上がりでツクツクボウシも聞こえず静かな始まりでした。それも一時で、知らぬ間にセミの声に包まれ暑さが増してきました。草原を歩くと、飛ぶわ飛ぶわ、小さなバッタやガが飛び交いますがなかなか捕まりません。昼近く、秋雨前線の影響が現れ、南から黒い雲が押し寄せ不穏な空気が漂ってきたので急ぎ解散しました。



センニンソウ 夏の間には蔓を伸ばし9月上旬頃藪先で見られます。ここではボートの栈橋の近くの水際近くで初めて見ました。仙人のように長い毛を生やした種が風に乗って来たのでしょうか。



サナエタデ
初夏から秋まで道端などで咲いています。小さなかわいい花を咲かせます。



メドハギ
細い3小葉を密生して1mほどになり上部は広がります。旗弁は全体に紅紫色で、中国原産のアカバナメドハギです。



メリケンムグラ
道端に敷き詰めたように葉を広げています。北米原産の植物。



ヤハズソウ
メドハギと同じマメの仲間です。葉を手に取ると側脈が平行に走るのが見られます。



アレチヌスビトハギ
北米原産。根際から四方に枝を伸ばし、近くを通過する生きものに種を付けやすい形を作ります。旗弁に黄緑色の斑紋が見られます。



ウツキコモリグモ
草原を飛ぶように走り抜け、なかなか捕まりません。丸い卵のうを腹部先端に付けて移動します。孵化したばかりの子供は親の背にしがみついて一緒に過ごす時期があります。



エンマコオロギの翅
左右の翅を持ち上げこすり合わせて鳴いて雌にアピールします。前羽を見ると、矢印の部分が箱形におり曲がっています。音を効果的に響かせるためだと思われます。



キオビコシプトヒメバチ

体長「15ミ」前後。バッタを捕まえようと振り回した網に入りました。きれいなヒメバチで腹部や額に鮮やかな黄色が見えます。ヒメバチなので卵を他の昆虫に産んでいるはずですが、何にかは不明。



マダラバッタ 体長30ミ前後。草原で一番よく見られたバッタです。素早さは折り紙付き。



ツクツクボウシめす

チッチゼミの声がしたので探していたら、近くの桜の幹にいました。意外にも手を伸ばしても逃げず捕まったのです。背は緑色が見えました。



シオカラトンボ卵を産み

おす

始める。雄と

見間違える色模様ですが腹部が太い雌です。

普通の雌はムギワラトンボといわれる通り黄色です。



シジュウカラ



ヤマガラ

人なつっこい小鳥で、冬が近づくとメジロやコゲラなどととも一緒に群を作って行動するようになります。



ジャノメ チョウ

大型の蝶です。暗い色に反して草原でよく見られます。そろそろこの蝶の季節は終わります。

植物 アレチヌスビトハギと実、メリケンムグラ、ツユクサ、アキノゲシ、メドハギ、ヤハズソウ、ブタナ、キツネノマゴ、オオニシキソウ、ヒヨドリバナ、サナエタデ、ハルシャギク、キバナノマツバニンジン実、イシミカワ花終わる。イヌビエ、キンエノコロ、ヤマイ、ヘクソカズラ、センニンソウ、マメアサガオ、クズ、ヤマノイモ実・むかご・雄花、キンシバイー輪、モミジアオイ、キダチコマツナギ、ヤマハギ、イタドリ雄花、アカメガシワ実と花、アラカシ芽吹きあり、ウバメガシ実、クチナシ実、ミヤマガマズミ実、マメガキ実、イソノキ実、センリョウ実、**昆虫・クモ等** ツマグロヒョウモン雄、ナミアゲハ、サトキマダラヒカゲ、ジャノメチョウ、ヒメウラナミジャノメ交尾、キタキチョウ、マエキヒメシャク、シバツトガ、トリバガの一種交尾、不明蛾1、オオスカシバ幼虫、ミノムシ(オオミノガ)、アオドウガネ、コイチャコガネ、ツクツクボウシ声とめす、チッチゼミ声、ヒゲナガカメムシ、アオバハゴロモ幼虫、スズメバチの一種、キボシトックリバチ、キオビコシプトヒメバチ、ニクバエの一種、ツマグロキンバエ(イタドリ)、サキグロムシヒキ、シオカラトンボ銀色型のめす、ウスバキトンボ、マユタテアカネ雌雄、マダラバッタ、ヒナバッタ、ショウリョウバッタモドキ、クルマバッタ、トノサマバッタ幼虫、ツチイナゴ幼虫、コバネイナゴ、クサキリ幼虫、ツユムシ幼虫、ホシササキリ幼虫・成虫、エンマコオロギ、ハラオカメコオロギ声、(クモ) ジョロウグモ雌雄、ナガコガネグモ、ウズキコモリグモと卵のう、ハナグモ、アズチグモ、アシナガグモ類、ササグモ、**鳥、その他** スズメ、シジュウカラ、ヤマガラ、ハシボソガラス、カワウ、カルガモ群、カナヘビ、ムネアカアワフキ巢、(虫こぶ)ヨモギクキツフシ(トビモンシロヒメハマキ幼虫)

次回は、10月8日(木) 午前9時30分、水資源機構P前集合、参加費100円